

平成 31 年度授業改善プラン 国語科

大田区立大森第四中学校

平成 30 年度授業改善プランの検証

取組における成果と課題

本校においては、漢字の読み書きや文法などの言語事項の学習を課題としている。その中でも、文法・語句に関する知識、漢字の書き・読み取りが、これまで他の領域に比べて正答率が低い傾向であった。対策として、授業の中で漢字の学習に力を入れてきた。その結果、1・3 学年では正答率が目標値に達していたが、残念ながら 2 学年では目標値を下回ってしまった。漢字を定着させられるよう、継続して指導していく。

読むことについてはここ数年良好であり、今年度の大田区学習効果測定の結果からもそれが伺えるが、1 学年では文学作品の内容を読み取ることが苦手だということが分かった。

3 学年は、授業時数の許す限り多様な作文活動をしてきたが、成果には個人差が見受けられる。後述するが、全員が課題に沿って作文が書けるように指導する必要がある。

国語科における調査結果の分析

<p>内容結果の分析</p>	<p>国語に関しては全体的に正答率を上げている。特に読むこと・書くことは、昨年に引き続き良好で目標値を上回る結果になっている。しかし、漢字の書き取りの正答率が他の領域に比べて正答率が低かった。今後の課題である。</p> <p>各学年の調査結果の分析</p> <p>&lt;第 1 学年&gt; 多くの領域で正答率が良好であるが、「話すこと・聞くこと」と漢字の読み書きの一部の領域において正答率が低い。 「話の内容を聞き取る」に関する問題の正答率が低い。</p> <p>&lt;第 2 学年&gt; 全体的に目標値を上回っている。 漢字の読み書きの問題における正答率が低い。 文節や単語など、文法分野が苦手である。</p> <p>&lt;第 3 学年&gt; 全領域で、正答率は区平均を上回っていて、前年度よりも向上している。 「書く能力」はその他と比べ、苦手であることが分かる。</p>
<p>観点別結果の分析</p>	<p>(話すこと・聞くこと) 第 2 学年・3 学年は目標値以上の高い正答率になっているが、第 1 学年は目標値を下回っている。</p> <p>(書くこと) 第 1 学年は目標値とほぼ同じ正答率であるが、第 2 学年・3 学年は目標値を大きく上回っている。</p> <p>(読むこと) 各学年とも説明文の読み取り、及び文学作品の読み取りにおいて、全体的に高い正答率であり、第 3 学年では昨年度を上回り、目標値に達した。そうした点から、これまでの取り組みで継続指導する。</p> <p>(言語についての知識・理解・技能) 第 1 学年では文法・語句の正答率は目標値を越えている。第 2 学年で漢字の読み書きの正答率がやや低かった。授業での漢字テストを継続し、知識として定着させる指導が必要である。また、文法の正答率が目標値を下回っているため、文法の定着を図るような指導をしていく。一方、第 3 学年では、漢字の書き取り能力が比較的高く、読み取りも目標値を上回っている。文法・語句も、正答率は目標値に達しているため、継続的に指導する。</p>

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント

(話すこと・聞くこと)	自分の意見を伝えること、相手の話の主張やねらいを考えることを学習の中心に設定する。特に相手の話の要旨をとらえた上で、相手の最も伝えたいことを捉える練習を、学年の発達段階に応じて実施する。授業の中で話し合い・発表を積極的に取り入れる。
(書くこと)	調査結果に基づき、引き続き論理的な文章の構成を重点的に指導する。各学年の発達段階・個人の成長段階に応じて、創造的な表現や多様な表現技法を取り入れ、よりレベルの高い文章が書けるように指導する。
(読むこと)	説明文では指示語・接続語に注目させ、段落関係や文章構成を把握、内容を理解させる。文学作品では登場人物の心情を中心に読み取る。書く学習と組み合わせ、論理的な思考を要する学習を設定する。
(言語事項)	漢字練習の際には、類義語や対義語など派生して周辺の語句にも触れさせる学習を設定する。また、授業中に辞書を積極的に引かせ、語句の意味を正しく理解させる。文法に関しては前学年の既習項目にも必ず触れ、知識を定着させるようくり返し指導する。

## 国語科の授業改善策

(話すこと・聞くこと)	スピーチをする際に、聞き手の指導に力を入れる。具体的には、まず、相手の話のテーマ、要旨、主張を意識的に聞き取り、的確に捉えさせるため、聞き取りメモを用いた練習を行う。また、選択的・批判的・創造的な聞き方を学習するために、インタビューやまとめ、発表の授業を取り入れて周囲と良好なコミュニケーションを構築できるようにする。
(書くこと)	教科書で学ぶ文章の「論理的な構成」を丁寧に指導する。その際、原稿用紙の使い方や、注意事項、課題文の読解をさせ、全員が作文を仕上げられるよう個別指導を行う。また、実際に文章を書く中で、事実の羅列にとどまらず、自分の考えを整理し、説得的・論理的に表現できるような学習を行う。教材ごとに課題作文に取り組んだり、受験の練習として二百字から四百字程度の作文を繰り返し行ったりすることで、文章力を高めるようにする。また、個人の到達度によって、創造的な表現や多様な表現技法を取り入れて書かせるようにする。
(読むこと)	説明文では全体を捉えるだけでなく、個々の段落の要旨や段落の相互関係を学習させる。「読むこと」の学習だけに止めず、書く学習などとも組み合わせ、論理的な考え方を身に付けさせる。 物語文では作品中の情景描写や行動描写などに着目させ、登場人物の心情との関わりを読み取らせる。また、表現技法など細やかな描写に気付かせるように指導を工夫する。 さらに、他の観点の学習も絡めて、機会を捉えて短い作品を読み、その感想をまとめ、スピーチをするなどの活動を取り入れ、読み、書き、言語等の力を向上させる。
(言語事項)	単元ごとに辞書を用いて語句調べをさせているが、その際に類義語・対義語などを並行して調べさせることで語彙を増やし、語意の微妙な違いに気付くことができるようにする。漢字については、意味学習と結び付けながらも、毎時間の授業で小テストを繰り返し、定期的に漢字ノートを提出させるなど、知識としても身に付けさせる。また、文法の学習については、既習内容の復習プリントを必ず実施し、知識の定着を促す。